

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
地域産業コー ス応用情報 経営情報学科	佐々木宣介 重丸伸二 陳 金輝 富田哲治	5月12日～19日 6月10日 7月7日	オンライン (Teams等)	<p>テーマ： オンライン授業の実施状況とその取り組み事例に基づく検討</p> <p>実施目的： 学科・コースで実際されたオンライン授業の実施状況をとりまとめ、各教員が取り組んだ工夫な失敗談などをコース教員で共有し、より良いオンライン授業のノウハウを共有し今後も続くであろうオンライン授業の改善に活かすことを目的とする。</p> <p>キーワード： オンライン授業、教育方法、情報共有</p> <p>実施内容： 地域産業コース応用情報の教員が担当する授業に対して、講義を主とする科目および演習・実験を主とする科目において、どのような形態（リアルタイム、オンデマンド、併用など）でオンライン授業を実施したかをFormsによりとりまとめた。合わせて、各授業における工夫した点、難しいと感じた点を自由記述で入力してもらい、実験・演習の多いコース特有の状況把握を行った。さらに、とりまとめたオンライン授業の実施状況を分析し、いくつかの科目について、その取り組み内容に関するヒアリングを行い、モデル事例としてコース教員で情報共有した。オンライン授業の実施状況のとりまとめ、および、個別のヒアリングの内容は、7月7日（水）10時20分～12時10分に開催された、地域創生学部の「オンライン授業に関する情報交換会」で報告し、他コースと事例報告も含めて、学部・学科・コースでノウハウ共有および意見交換を行った。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
経営学科	矢澤 利弘 朴 唯新	R3.12.8（水） 10：40～12：10	広島キャンパス 各研究室 （オンライン）	<p>テーマ：ゼミ活動における行動型学修の指導方法の検討</p>
				<p>実施目的：行動型学修が期待される演習科目の質の向上及び改善を目的として、教員のユニークな取り組みの事例や内容を共有し、教育・指導方法を検討する。</p>
				<p>キーワード：行動型学修，教育方法，情報共有</p>
				<p>実施内容：</p> <p>学生が教室外での学びを取り入れる行動型学修の具体的な方法や注意点について、教員が報告し、学科全教員で意見交換し、効果的な教育・指導方法を検討した。</p> <p>具体的には、定例の学科会議に合わせて、行動型学修のユニークな取り組み等について報告した。今年度は、行動型学修のケースとして、矢澤ゼミが毎年開催している広島こわい映画祭を題材にして、活動の概要、学生との接し方、どこまで教員がリーダーシップを取るべきか、オンライン環境における学生とのコミュニケーションなどの各論点について報告を行った。報告後は質疑応答を行い、各教員が参考とすべき点、工夫や改善が望まれる点などについて、全教員で意見を交換した。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネータ 氏名	日時	実施場所	実施内容等
人間文化学部 健康科学科 地域創生学部 地域創生学科 健康科学コース	松本 拓也 辻 文 岡田 玄也 鍛島 秀明 山岡 雅子	R3. 7. 21(水) R3. 9. 15(水) コース会議終了 後～	Teams におけるオ ンライン会議	<p>テーマ： 管理栄養士国家試験合格率向上のための組織的な取り組み</p> <p>実施目的：管理栄養士国家試験の全国合格率は、新卒者では90%程度であるが、既卒者では20%程度に留まるため、新卒での合格が必須である。健康科学科・健康科学コースの直近5年間の合格率は94.4%から100%の間で推移し、平均合格率は97.8%である。年度によっては全員合格に至らない場合もあるため、国家試験対策を効果的に実施する必要がある。したがって、管理栄養士国家試験対策を効果的に実施し、国家試験合格率向上のための組織的な検討を試みる。</p> <p>キーワード： 管理栄養士国家試験対策、合格率、組織的取り組み</p> <p>実施内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の受験者において合格に至らなかった事例を取り上げ、学習支援の方法に反映させた。 ・授業内で実施している国家試験対策を各教員から紹介してもらい、学科・コースで共有した。 ・国家試験に対する学習支援内容や合格率などの現状を検証し、効率的な支援体制を検討した。 ・模擬試験等で得点が伸び悩む学生に対する支援方法等について、国家試験対策教員と所属研究室教員との間で効果的に実施する体制を整えた。

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネータ 氏名	日時	実施場所	実施内容等
人間文化学部 健康科学科 地域創生学部 地域創生学科 健康科学コース	松本 拓也 辻 文 岡田 玄也 鍛島 秀明 山岡 雅子	R3. 7. 21(水) R3. 9. 15(水) コース会議終了 後～	Teams におけるオ ンライン会議 広島キャンパス会 議室 各研究室	<p>テーマ： 管理栄養士国家試験合格率向上のための組織的な取り組み</p> <p>実施目的：管理栄養士国家試験の全国合格率は、新卒者では90%程度であるが、既卒者では20%程度に留まるため、新卒での合格が必須である。健康科学科・健康科学コースの直近5年間の合格率は94.4%から100%の間で推移し、平均合格率は97.8%である。年度によっては全員合格に至らない場合もあるため、国家試験対策を効果的に実施する必要がある。したがって、管理栄養士国家試験対策を効果的に実施し、国家試験合格率向上のための組織的な検討を試みる。</p> <p>キーワード： 管理栄養士国家試験対策、合格率、組織的取り組み</p> <p>実施内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の受験者において合格に至らなかった事例を取り上げ、学習支援の方法に反映させる。 ・授業内で実施している国家試験対策を各教員から紹介してもらい、学科・コースで共有する。 ・国家試験に対する学習支援内容や合格率などの現状を検証し、効率的な支援体制を検討する。 ・模擬試験等で得点が伸び悩む学生に対する支援方法等について、国家試験対策教員と所属研究室教員との間で効果的に実施する体制を整える。

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
経営学科	矢澤 利弘 朴 唯新	R3.12.8（水） 10：40～12：10	広島キャンパス 各研究室 （オンライン）	<p>テーマ： ゼミ活動における行動型学修の指導方法の検討</p>
				<p>実施目的： 行動型学修が期待される演習科目の質の向上及び改善を目的として、教員のユニークな取り組みの事例や内容を共有し、教育・指導方法を検討する。</p>
				<p>キーワード： 行動型学修，教育方法，情報共有</p>
				<p>実施内容：</p> <p>学生が教室外での学びを取り入れる行動型学修の具体的な方法や注意点について、教員が報告し、学科全教員で意見交換し、効果的な教育・指導方法を検討する。</p> <p>具体的には、定例の学科会議に合わせて、行動型学修のユニークな取り組み等について報告する。今年度は、行動型学修のケースとして、矢澤ゼミが毎年開催している広島こわい映画祭を題材にして、活動の概要、学生との接し方、どこまで教員がリーダーシップを取るべきか、オンライン環境における学生とのコミュニケーションなどの各論点について報告を行う。報告後は質疑応答を行い、各教員が参考とすべき点、工夫や改善が望まれる点などについて、全教員で意見を交換する。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
地域産業コー ス応用情報 経営情報学科	佐々木宣介 重丸伸二 陳 金輝 富田哲治	5月12日～19日 6月10日 7月7日	オンライン (Teams等)	<p>テーマ： オンライン授業の実施状況とその取り組み事例に基づく検討</p> <p>実施目的： 学科・コースで実際されたオンライン授業の実施状況をとりとめ、各教員が取り組んだ工夫な失敗談などをコース教員で共有し、より良いオンライン授業のノウハウを共有し今後も続くであろうオンライン授業の改善に活かすことを目的とする。</p> <p>キーワード： オンライン授業、教育方法、情報共有</p> <p>実施内容： 地域産業コース応用情報の教員が担当する授業に対して、講義を主とする科目および演習・実験を主とする科目において、どのような形態（リアルタイム、オンデマンド、併用など）でオンライン授業を実施したかをFormsによりとりとめる。合わせて、各授業における工夫した点、難しいと感じた点を自由記述で入力してもらい、実験・演習の多いコース特有の状況把握を行う。次に、とりとめたオンライン授業の実施状況をもとに、いくつかの科目について、その取り組み内容に関するヒアリングを行う。オンライン授業の実施状況のとりとめ、および、個別のヒアリングの内容は、7月7日（水）10時20分～12時10分に開催される、地域創生学部の「オンライン授業に関する情報交換会」で報告し、学部・学科・コースでノウハウ共有および意見交換を行う。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科 学部 生命環境科 学科 生命科学コ ース	伊原 伸治	10/5, 10/19, 11/2, 11/16, 12/7	大講義室, 各研究 室, オンラインオ ンデマンド等	<p>テーマ： 学生による主体的な研究室配属の決定とキャリア形成への意識付け</p> <p>実施目的： 今年度が新しいコースでの最初の研究室配属となる。卒業研究、すなわちアクティブラーニングを学生主体に推進するために、コースの学生希望にそった研究室配属の制度設計を行う。また学生が興味のある卒業研究に取り組めるように本コースに所属している教員の専門分野や研究領域を学ぶ事を目的とする。</p> <p>キーワード： アクティブラーニング, 学びの意識づけ, キャリア形成</p> <p>実施内容： 生命環境学科には、生命科学コースと環境科学コース、そして経過選択コースが存在している。経過選択の学生は、2年時の第2Q終了時に希望のコースへと配属される。また本コースは3年時に卒業研究を行う研究室に配属されるので、2年第3Qでは研究室配属にむけての生命科学セミナーが開講されるが、それまでに生命科学コースで行うことのできる具体的な研究領域について学ぶ機会はほとんどない。そこで生命科学コースの学生、そして経過選択コースから生命科学コースを選択した学生を対象にして、生命科学コースで行われる全教員の研究分野の理解、学生の希望に寄り添った研究室配属の決定、そして将来のキャリア形成を考える機会の創出を本テーマの目的とする。 具体的には、生命科学セミナー（2年3Q必修）で、全教員による研究内容の紹介及び学生による生命科学コースにある全ての研究室訪問を行い、所属コースの研究室で学べる内容、研究の方向性をナビゲートする。さらに配属を希望する研究室への個別訪問も行い、学修分野や研究領域、将来像、そして配属を希望する研究室の教員自身の理解を促進する。研究室配属前の各研究室の内容とその個性を十分に学生が理解することで学生の希望に沿った研究室配属の決定が可能となることが期待され、さらに学生自身の卒業研究への取り組む意欲の向上が見込まれる。</p> <p>1. 生命科学コースでは、2年第3Qの生命科学セミナーで全教員の研究室訪問を行った。オンライン授業の多い学年であったが、実際に各教員の研究室を訪問したことは、自分の所属するコースにどのような教員がいて、どういった研究をしているのか、その理解に有益であるとの意見がおおかった。また、実際に自分たちがどのような研究に取り組むことのできるのか、その理解に役立ったとの意見も見られた。</p> <p>卒論配属後の学生アンケート 8割の学生がGPAによる振り分けに賛成であった（アンケート結果を下記にしめす）。また今回GPAで卒論を行う研究室の振り分けをした。その結果、8割程度の学生が第3希望までの研究室に配属されたが、2割程度の学生は希望順位の低い研究室に配属されたので、1年後に意識調査（現在の満足度等）を行う予定である。</p>

学生からの意見として GPA で研究室の振り分けが決まるのなら、1年時から通知してほしいとの意見が多数あり、令和4年度は1年、2年に生命科学コースでは卒論配属をGPA順で決定することを既に通知済みであり、学習意欲の底上げにつながることを期待できる。

1. 今年度の配属方法（学生の希望に基づくGPAを用いた振り分け）に賛成である。

詳細

Insights



令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
生物資源 科学部 生命環境 学科 環境科学 コース	大竹 才人 橋本 温 青柳 充 小林 謙介 柳下真由子	令和3年度 期間内	庄原キャンパス オンライン会議	<p>テーマ： オンライン授業における効果的なキャリア形成の取り組み</p> <p>実施目的： 環境と社会との関わりに対する理解を深め、自立的なキャリア形成を目的とする。</p> <p>キーワード： 生命環境科学基礎セミナー、環境科学セミナー、キャリア形成</p> <p>実施内容： 新カリキュラム2年目に当たり、キャリア形成科目として位置付けている1年3Q生命環境科学基礎セミナーと、それに接続される2年3Qの環境科学セミナーは、本年度通貫して実施されることになる。環境科学セミナーは、新カリキュラムにおいて初めての運用となり、その内容の構築を行なう。例えば、地域の環境関連施設を見学して、実際の取り組みを理解することで社会に果たす役割を通して、学生の主体的なキャリア形成の促進を試みる。一方で、実際に見学が実施できない状況下での対応も同時に考えて、オンライン授業での運用方法を検討する。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
保健福祉学 部看護学科/ 保健福祉学 科看護学コ ース	教育課程検討会 青井聡美	毎月1回	Teams オンライン会議	テーマ：カリキュラム評価の検討と卒業生アドバイザーの運用と国家試験対策の取り組み
				実施目的：DP達成度を可視化し、主体的な学修を促進させる学修環境の整備
				キーワード：DPルーブリック 卒業生アドバイザー 国家試験対策
				実施内容： 1. カリキュラム評価の検討 ①看護学科カリキュラムマップの作成 ②3Pの関係図式化 ③DP評価ルーブリックの作成 2. 卒業生アドバイザーの運用 卒業生による学生の学修支援を通じ、学生の学修意欲と学修効果の向上を図るとともに、卒業生及び学生の成長の機会とする。また、卒業生の卒後の状況把握と継続教育、リフレクションの機会とすることを目的とした卒業生アドバイザーの運用方法を検討する。 3. 国家試験対策 国家試験合格に向け3つの対策を実施する。 対策①：8月5日に看護師・保健師国家試験の傾向と陥りやすい傾向、年間学修計画と卒業生の学修方法を伝える講座を開催する。 対策②：9月3日に津森教授による「解剖学セミナー」を開催する予定である。 対策③：1月上旬に卒業生アドバイザーとのオンライン座談会を実施する。

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学 部看護学科/ 保健福祉学 科看護学コ ース	実習検討会 吉田和美	テーマⅠ 年1回 (令和3年4月) テーマⅡ 毎月1回	テーマⅠ Teams会議 テーマⅡ Teams会議	<p>テーマ：</p> <p>テーマⅠ：実習指導担当者との前年度実習の成果と課題・今年度臨地実習に関する情報共有</p> <p>テーマⅡ：臨地実習教育の充実</p>
				<p>実施目的：実習にかかわる教員と実習指導担当者で情報共有を行い、臨地実習における学生の現状と課題を把握、共有し、円滑な臨地実習の運営と看護教育の質の向上を図る。</p>
				<p>キーワード： 臨地実習、教育方法、情報共有</p>
				<p>実施内容：</p> <p>テーマⅠ：新型コロナウイルス感染症拡大の状況から、Teamsでのオンライン会議（リアルタイム型）で「コロナ禍における臨床現場と教育現場双方の現状と課題」をテーマとし開催する。臨床から事前聴取したコロナ禍の教育の現状に関する事前アンケート報告と、前年度実習の成果・課題を報告し、今年度のより良い臨地実習に向けた情報共有を行う。</p> <p>テーマⅡ：年間の臨地実習に関わる情報を教員間で共有し、学生指導や実習環境についての検討を行う。また、年間実習計画の調整および見直しを実施する。臨地実習で求められる感染症予防対策（COVID-19、インフルエンザ等）、事故対策、個人情報及びプライバシーの保護に関して必要なマニュアルや書類の更新、書類管理の方法については、引き続き検討する。令和4年度実習要綱の作成と学生のレディネス形成を促す教育方法の検討を行う。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学 部看護学科/ 保健福祉学 科看護学コ ース	看護学科/ 看護学コース FD 担当 吉田 和美	令和3年 5月～	三原キャンパス 各講義室 または オンライン形式	<p>テーマⅠ：授業公開・授業参観を通じた教員相互の授業設計／授業展開の点検 テーマⅡ：パフォーマンス評価（ルーブリック）に関する学修</p>
				<p>実施目的：卒業時の到達目標（DP）の達成に向けて、看護実践能力の育成を目指した授業設計／授業展開を教員相互で点検し授業改善をおこなう。また、達成状況を真正に評価するためのパフォーマンス評価（ルーブリック）導入を推進する。</p>
				<p>キーワード： 授業設計，パフォーマンス評価（ルーブリック），組織的教育</p>
		令和3年度 2-3回	Teams オンライン会議	<p>実施内容： テーマⅠ： 令和元年度の実施した授業公開・授業参観の体系を改善した上で利用し実施する。参加教員は、「授業設計」と「授業の展開（単元ごとの目標達成に向けた教授方法の工夫等）」に関する意見交換をおこない、領域横断的な講義・演習・実習を充実させるための方策や看護実践能力の育成を目指した授業改善にヒントを得る機会とする。 テーマⅡ： セミナーの開催を通して、看護学コース内でのパフォーマンス課題を取り入れた授業やルーブリック評価の実践例を共有し、ルーブリックの導入と活用を促進する。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 理学療法学 コース	佐藤勇太	(前期) 毎週水曜日 4 限 (後期) 毎週水曜日 1 限	Teams 内(予定)	<p>テーマ： 「学生の動向を把握・共有する」, 「コロナ禍での講義の形態・方向性を吟味する」 「各教員の研究領域の紹介」</p> <p>実施目的： 「要支援学生の指導・援助の一貫化を図る」, 「コロナ禍での授業形態・方向性の共有および改善」, 「最新の知見を踏まえた専門教育の充実を図る」</p> <p>キーワード： 学生支援, 国家試験, 教育実践</p> <p>実施内容：</p> <p>(1) 「学生の動向を把握・共有する」について 前年度に引き続き、オンライン講義等の実施により、対面の機会が少なくなったことに伴い、各チューターを中心にコロナ禍前以上に学生の動向を把握するよう努める。また、各学生の情報を共有することで、指導・援助の一貫化を図る。各学生の状況は、毎週のコース会議にて各学年担当のチューターから報告される。配慮が必要な学生については、各担当教員を中心に詳細な報告・情報共有をし、協議を行う。臨床実習の時期には、臨床実習指導者や教員が連携し、学生状況の把握・共有を図る。</p> <p>(2) 「コロナ禍での講義の形態・方向性を吟味する」について オンライン講義等の実施により、これまでの講義形態とは異なる教授方法の知識・技術が必要となったことも踏まえ、専門教育のさらなる充実を図るために、講義内容、学生指導のあり方について検討する。また感染予防対策をより効果的に実施していくための情報共有を行う。コース会議において、国家試験模試の結果を共有し、国家試験に向けた講義等に活用する。コース会議に合わせて月1回程度、各種教授法の実践例紹介などを通して情報共有し、今後の講義を吟味する。また、指定規則改定に伴う実習体制の検討や教育プログラムの構築、新施設基準に即した教育物品の購入・充実化を引き続き行っていく。</p> <p>(3) 「各教員の研究領域の紹介」について 各教員の研究領域における成果の共有や最新のトピックスを紹介することを通じ、研究・教育能力の向上を図る。コース会議に合わせて月1回程度、各教員の研究紹介などを通して実施予定である。</p> <p>(1)(2)(3)の内容は、個人情報を含むコース特有の内容についての議論が必要である。このため、公開は、取り扱う内容によって判断するものとする。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学 部 作業療法学 コース	助川 文子	年 10 回 毎月第 1・3 水曜 12:30-13:00	(前期) オンライン (後期) 2416 会議室	<p>テーマⅠ：学生支援と教育効果に関する検討 テーマⅡ：「教員の研究領域の紹介」</p> <p>実施目的：テーマⅠ：学生の情報共有と指導・援助のコース内のコンセンサスを図る。事例検討，各年次の課題，臨床実習/国家試験指導等のテーマ別の検討の共有を行う。 テーマⅡ：各教員の研究領域における成果を共有し，最新の研究エビデンスの共有と研究・教育能力の向上を図る。</p> <p>キーワード： 学生指導，臨床実習指導，国家試験指導，</p> <p>実施内容：</p> <p>①学生の情報共有と事例検討(テーマⅠ)</p> <p>②臨床実習教育(テーマⅠ) 指定規則の変更に対応できる実習形態の変更とともに実習先の病院や施設と連携を図りながら，よりよい臨床実習教育の充実について昨年度に引き続きカリキュラムツリーの検討を行う。</p> <p>③国家試験指導(テーマⅠ) 国家試験全員合格に向けて基礎学習から低成績者の学修をサポート，支援体制を構築を検討する。</p> <p>④最新の研究エビデンスの共有(テーマⅡ) 作業療法関連領域における教員の研究成果を共有し，教育内容に取り入れていく。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学 部 保健福祉学 科 コミュニケ ーション障 害学コース	伊集院睦雄	令和3年度（月 に1回程度）	三原キャンパス 内／Teams上	テーマ： 年間を通じた学科での教育改善活動
				実施目的：教育の質の向上を目的として、各教員が行っている研究・教育活動、実施・参加したFDに関する研修などの内容を共有する。さらに、教育の成果に即したカリキュラム改善を目的として、年間を通して教育課程の改善について検討を行う。
				キーワード： 教育の改善、研究活動情報共有、伝達講習
				実施内容： 1. 教員が取り組んでいる研究活動の紹介と議論 2. 教員が取り組んでいる教育改善活動の紹介と共有 3. FDに関連した学外等で実施された研修内容の共有

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
人間福祉学 科	大下由美	令和3年／令和 4年	三原キャンパス 内／Teams上	<p>テーマ：人間福祉学コースの教育の質の向上を図る</p> <p>実施目的：学科教員の教育内容の洗練と教授スキルの向上を目指す</p> <p>キーワード：教授内容、教授スキル、アクティブ・ラーナーの養成、ピア・レビュー</p> <p>実施内容：本年度人間福祉学科・コースでは、以下の3つの活動を行う。</p> <p>（1）教育内容の検討に取り組む（新） 学部・学科・コースのポリシーに見合う人材育成に向けた、教育内容の検討を開始し、教員間相互の教育研究に関する意見交換の場を設け、相互研鑽を図る。</p> <p>（2）教授スキル（オンライン限定）の共有と向上 学科・コース教員のオンラインでの授業スキルの共有と向上に向けて、オンライン授業支援委員会を中心とした、オンライン授業スキルの共有を図る。</p> <p>（3）ピア・レビュー 学科・コース教員による相互レビューとして、以下の2つの活動を行う。 ①学科・コース教員による授業公開と授業参観を相互に行う（オンラインを含む）。 ②社会福祉実習と精神保健福祉実習の取り組みについて、学科・コース教員全員で相互レビューする（年度末に1回）。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
助産学専攻 科	宮下ルリ子 奥山葉子 金川景子 百田由希子	令和3年4月～令 和4年3月（月に 1回程度）	三原キャンパス 4301室（Zoom によるオンライ ン会議を含む）	<p>テーマ：教育や実践・臨床現場の効果的な質保証に向けた取り組み</p> <p>実施目的：学生の学修意欲を引き出すための主体的な授業や参加型学修方法、それらを評価するための方法について検討を行う。また教員の学修指導力の向上や教員自身の実践力を身につけることを目的とする。</p> <p>キーワード：教育技法（AL型：シミュレーション教育）、教育評価</p> <p>実施内容： 社会情勢の急激な変化に伴い、複雑化する諸問題への対応が必要となっています。こうした中、助産学専攻科では、幅広い知識と柔軟な思考力に基づき、学生自らが考え、仲間とともに主体的に学ぶ授業スタイルを大切にしています。教員は専門職としての自律を担保し、また、臨床現場に即した実践能力や教育方法を検討する必要があります。</p> <p>①助産シミュレーション教育について（4/9・宮下） ②臨床能力・実習実践力の評価について（5/24・奥山） ③倫理的感受性能力を育む（6/18・百田） ④（7月末予定・金川） 以降、月に1回程度開催予定。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 生命環境学科 環境科学コース	大竹 才人 橋本 温 青柳 充 小林 謙介 柳下真由子	R3年8月23日 R3年8月23日 R3年9月27日 R3年9月29日 R4年2月3日 R4年3月8日	庄原キャンパス 各教室/研究室 等	<p>テーマ： オンライン授業における効果的なキャリア形成の取り組み</p> <p>実施目的： 環境と社会との関わりに対する理解を深め、自立的なキャリア形成を目的とする。</p> <p>キーワード： 生命環境科学基礎セミナー、環境科学セミナー、専門意識の醸成、ハイブリッド実験</p> <p>実施内容： 新カリキュラム2年目に当たり、キャリア形成科目として位置付けている1年3Q生命環境科学基礎セミナーと、それに接続される2年3Qの環境科学セミナーは、本年度になり初めて通貫して実施された。 1年3Q生命環境科学基礎セミナーは、環境科学コースにおいて外部講師を招聘した。(株)エフピコ様、(株)いであ様、環境省様、広島県様、庄原市西城自治振興区様より、それぞれのお立場から環境に関わる活動についてご講演を頂いた。その様子は、環境科学コースのwebページにて情報発信した¹⁾。 2年3Q環境科学セミナーは、新カリキュラムにおいて初めての運用となった。当初案では、庄原市内の環境関連施設である一般廃棄物処分場や浄水施設、太陽光発電所を見学する予定であったが、オンライン化に変更してTeamsを用いたグループワークを行った。議題は、エネルギー事情を改善するための案やエコツーリズム案を施政者側の立場に立って立案させるものである。独自の環境科学版ポートフォリオによる本セミナーの分析結果から、環境科学の社会における必要性、重要性の高さやイメージされる内容と、実際の具体的な学びや活躍にはギャップがあることが見いだされるとともに、教育の進行に従って環境科学への理解の深度や視野が広がっていることが認められた。この2つのセミナー科目についての詳細な活動内容と成果は、紀要に報告した²⁾。 他方で、環境科学コースでは1年次必修科目である「化学実験」について、予習動画の作成と対面実験を組み合わせたハイブリッド実験を行った。全10回の実験後に行った自由記述学生アンケートでは、予習動画の効果について回答を分析したところ、予習動画+対面というハイブリッドスタイルにすることで、予想以上の教育的学習効果が得られた結果となった。このハイブリッド実験の試みと詳細な分析結果は、紀要に報告した³⁾。</p> <p>1) https://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/bioresourcencesf/211117.html 2) 県立広島大学 大学教育実践センター紀要 第2号 59-66頁 2022年 「環境科学版ポートフォリオ“学習の記録”の活用による専門キャリア教育の実践」 3) 県立広島大学 大学教育実践センター紀要 第2号 53-58頁 2022年 「実験実習系科目の予習動画の活用による学習効果の向上 ～新型コロナウイルス流行時の化学実験を例に～」</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学 部看護学科/ 保健福祉学 科看護学コ ース	教育課程検討会 青井聡美	毎月1回 計11回開催 ①4月5日 ②5月7日 ③6月3日 ④7月2日 ⑤9月1日 ⑥10月1日 ⑦11月4日 ⑧12月9日 ⑨1月24日 ⑩2月14日 ⑪3月10日	Teams 会議	テーマ： カリキュラム評価の検討と卒業生アドバイザーの運用と国家試験対策の取り組み
				実施目的： DP 達成度を可視化し、主体的な学修を促進させる学修環境の整備
				キーワード： DP ルーブリック 卒業生アドバイザー 国家試験対策
				実施内容： 1. カリキュラム評価の検討 3P の関係の図式化を完成させ、HP 上で公開した。また、DP ルーブリックの完成にむけて、第2回看護FD研修会『看護学コース DP ルーブリックの完成を目指す』にてコースメンバー全体で検討した。しかし、今年度完成には至らず、次年度完成にむけて検討していく。 2. 卒業生アドバイザーの運用 今年度より卒業生アドバイザーの運用を開始し、9名の卒業生がオンラインで活動した。内容はオンライン講話1名、国家試験に向けてのアドバイス8名であった。卒業生は在校生の姿に刺激を受け、仕事への取り組み姿勢の改善や他者への説明、言語化することへの課題を見出していた。 3. 国家試験対策 国家試験対策セミナーを3回開催した。第1回国家試験対策セミナー（8/5）は、看護師国家試験の傾向・年間計画の立て方・卒業生の勉強方法の紹介・保健師国家試験対策、第2回国家試験対策セミナー（9/3）は、解剖学セミナー、第3回国家試験セミナー（1/7）は第1部「解剖学セミナー」・第2部「卒業生との座談会」を開催した。

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学 部看護学科/ 保健福祉学 科看護学コ ース	実習検討会 吉田和美	<p>テーマⅠ 年1回 (令和3年4月 23日)</p>		<p>テーマ： テーマⅠ：実習指導担当者との前年度実習の成果と課題・今年度臨地実習に関する情報共有 テーマⅡ：臨地実習教育の充実</p>
				<p>実施目的：実習にかかわる教員と実習指導担当者で情報共有を行い、臨地実習における学生の現状と課題を把握、共有し、円滑な臨地実習の運営と看護教育の質の向上を図る。</p>
		<p>テーマⅡ 毎月1回 計11回開催</p>	<p>テーマⅠ Teams 会議</p>	<p>キーワード： 臨地実習，教育方法，情報共有</p>
		<p>①4月23日 ②5月13日 ③6月14日 ④7月16日 ⑤9月30日 ⑥10月21日 ⑦11月16日 ⑧12月17日 ⑨1月14日 ⑩2月14日 ⑪3月10日</p>	<p>テーマⅡ Teams 会議</p>	<p>実施内容： テーマⅠ：実習指導担当者協議会の企画・運営 新型コロナウイルス感染症拡大の状況から、Zoomでのオンライン会議（リアルタイム型）で「コロナ禍における臨床現場と教育現場双方の現状と課題」をテーマとし開催した。臨床から事前聴取したコロナ禍の教育の現状に関する事前アンケート報告と、前年度実習の成果・課題を報告した。協議会后アンケートによる実習施設からの評価は、学内実習でも実習目標が達成できていること、学生の満足度の良さ、移動時間の省略の良さが挙げられた。一方で、現場の多忙さを背景に会議時間の短縮に向けた要望が挙げられたため、次年度開催時に検討していく必要がある。</p> <p>テーマⅡ：臨地実習教育の充実 実習指導担当者協議会の企画・運営、次年度臨地実習要綱の作成、次年度実習計画の策定・施設への依頼、臨地実習に求められる感染症予防対策（COVID-19対策ガイドライン改定と運用/インフルエンザ対策等）、臨地実習に必要な消耗品等の一括管理、SNSにおける個人情報取り扱いの啓発を行った。特に、COVID-19対策ガイドラインの改定とともに学生用承諾書を臨地実習誓約書として改定し、実習前のアルバイト禁止等の誓約事項を遵守できるよう対策を講じた。また、看護基礎教育検討会報告書（厚生労働省）より示された看護師教育の技術項目と卒業時の到達度を元に教育課程検討会で作成された「看護技術の卒業時到達レベルと経験録」を引き継ぎ、臨地実習要綱に掲載し今年度から実用を開始した。毎回の会議で各臨地実習報告を行い、実習指導上の問題点や指導内容について情報共有及び意見交換を行い、実習指導体制や実習施設の環境の充実を図った。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
保健福祉学部看護学科/ 保健福祉学科看護学コース	看護学科/ 看護学コース FD担当 吉田 和美	テーマⅠ 令和3年 5月～随時	テーマⅠ 三原キャンパス 各講義室 または Teams等の	<p>テーマⅠ：授業公開・授業参観を通じた教員相互の授業設計／授業展開の点検</p> <p>テーマⅡ：パフォーマンス評価（ルーブリック）に関する学修</p>
			オンライン形式 での授業、随時	<p>実施目的：卒業時の到達目標（DP）の達成に向けて、看護実践能力の育成を目指した授業設計／授業展開を教員相互で点検し授業改善をおこなう。また、達成状況を真正に評価するためのパフォーマンス評価（ルーブリック）導入を推進する。</p>
				<p>キーワード： 授業設計, パフォーマンス評価（ルーブリック）, 組織的教育</p>
		<p>テーマⅡ 令和3年 9月1日(水) 2限 12月23日(木) 1限</p>	<p>テーマⅡ Teams オンライン会議</p>	<p>実施内容：</p> <p>テーマⅠ：授業公開・授業参観を通じた教員相互の授業設計／授業展開の点検</p> <p>昨年度実施した授業公開・授業参観の体系のうち申込み方法を一部簡素化し改善した上で実施した。授業参観する教員は、自ら参観一覧に入力して参観授業担当教員に申込み、その後対面またはオンライン会議またはチャット等で意見交換を行うこととした。今年度の参観一覧に入力された授業参観は25件であった。昨年度の77件より大幅に減少したが、全学的なピアレビューへの参加者数は増加した。次年度から全学的なピアレビューでの授業参観への参加を促していく。</p> <p>テーマⅡ：パフォーマンス評価（ルーブリック）に関する学修</p> <p>令和3年度の第1回ルーブリック作成セミナーは「小児看護実習と精神看護実習の実習ルーブリックの紹介」を開催した。8月にルーブリック研修に関するニーズ調査を実施し、実習科目のルーブリックに囚われないこととし、第2回は「看護学コース DP ルーブリックの完成を目指す」を開催した。参加者は第1回28名、第2回27名であった。第2回のDPルーブリック研修では時間不足の声が聞かれたが、いずれも自己の教育活動に還元できると評価を得た。引き続き、ルーブリックの導入と活用を促進する取り組みを企画していく必要がある。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネータ 氏名	日時	実施場所	実施内容等
人間文化学部 健康科学科 地域創生学部 地域創生学科 健康科学コース	松本 拓也 辻 文 岡田 玄也 鍛島 秀明 山岡 雅子	R3. 7. 21(水) R3. 9. 15(水) コース会議終了 後～	Teams におけるオ ンライン会議 広島キャンパス会 議室 各研究室	<p>テーマ： 管理栄養士国家試験合格率向上のための組織的な取り組み</p> <p>実施目的：管理栄養士国家試験の全国合格率は、新卒者では 90%程度であるが、既卒者では 20%程度に留まるため、新卒での合格が必須である。健康科学科・健康科学コースの直近 5 年間の合格率は 94.4% から 100%の間で推移し、平均合格率は 97.8%である。年度によっては全員合格に至らない場合もあるため、国家試験対策を効果的に実施する必要がある。したがって、管理栄養士国家試験対策を効果的に実施し、国家試験合格率向上のための組織的な検討を試みる。</p> <p>キーワード： 管理栄養士国家試験対策、合格率、組織的取り組み</p> <p>実施内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の受験者において合格に至らなかった事例を取り上げ、学習支援の方法に反映させる。 ・授業内で実施している国家試験対策を各教員から紹介してもらい、学科・コースで共有する。 ・国家試験に対する学習支援内容や合格率などの現状を検証し、効率的な支援体制を検討する。 ・模擬試験等で得点が伸び悩む学生に対する支援方法等について、国家試験対策教員と所属研究室教員の間で効果的に実施する体制を整える。

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネー ター氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
経営学科	矢澤 利弘 朴 唯新	R3.12.8（水） 10：40～12：10	広島キャンパス 各研究室 （オンライン）	テーマ：ゼミ活動における行動型学修の指導方法の検討
				実施目的：行動型学修が期待される演習科目の質の向上及び改善を目的として、教員のユニークな取り組みの事例や内容を共有し、教育・指導方法を検討する。
				キーワード：行動型学修，教育方法，情報共有
				<p>実施内容：</p> <p>学生が教室外での学びを取り入れる行動型学修の具体的な方法や注意点について、教員が報告し、学科全教員で意見交換し、効果的な教育・指導方法を検討する。</p> <p>具体的には、定例の学科会議に合わせて、行動型学修のユニークな取り組み等について報告する。今年度は、行動型学修のケースとして、矢澤ゼミが毎年開催している広島こわい映画祭を題材にして、活動の概要、学生との接し方、どこまで教員がリーダーシップを取るべきか、オンライン環境における学生とのコミュニケーションなどの各論点について報告を行う。報告後は質疑応答を行い、各教員が参考とすべき点、工夫や改善が望まれる点などについて、全教員で意見を交換する。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネー ター氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
地域産業コー ス応用情報 経営情報学科	佐々木宣介 重丸伸二 陳 金輝 富田哲治	5月12日～19日 6月10日 7月7日	オンライン (Teams等)	<p>テーマ： オンライン授業の実施状況とその取り組み事例に基づく検討</p> <p>実施目的： 学科・コースで実際されたオンライン授業の実施状況をとりとまとめ、各教員が取り組んだ工夫な失敗談などをコース教員で共有し、より良いオンライン授業のノウハウを共有し今後も続くであろうオンライン授業の改善に活かすことを目的とする。</p> <p>キーワード： オンライン授業，教育方法，情報共有</p> <p>実施内容： 地域産業コース応用情報の教員が担当する授業に対して、講義を主とする科目および演習・実験を主とする科目において、どのような形態（リアルタイム、オンデマンド、併用など）でオンライン授業を実施したかをFormsによりとりとまとめる。合わせて、各授業における工夫した点、難しいと感じた点を自由記述で入力してもらい、実験・演習の多いコース特有の状況把握を行う。次に、とりとまとめたオンライン授業の実施状況をもとに、いくつかの科目について、その取り組み内容に関するヒアリングを行う。オンライン授業の実施状況のとりとまとめ、および、個別のヒアリングの内容は、7月7日（水）10時20分～12時10分に開催される、地域創生学部の「オンライン授業に関する情報交換会」で報告し、学部・学科・コースでノウハウ共有および意見交換を行う。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科 学部 生命環境科 学科 生命科学コ ース	伊原 伸治	10/5, 10/19, 11/2, 11/16, 12/7	大講義室, 各研究 室, オンラインオ ンデマンド等	<p>テーマ： 学生による主体的な研究室配属の決定とキャリア形成への意識付け</p> <p>実施目的： 今年度が新しいコースでの最初の研究室配属となる。卒業研究、すなわちアクティブラーニングを学生主体に推進するために、コースの学生希望にそった研究室配属の制度設計を行う。また学生が興味のある卒業研究に取り組めるように本コースに所属している教員の専門分野や研究領域を学ぶ事を目的とする。</p> <p>キーワード： アクティブラーニング, 学びの意識づけ, キャリア形成</p> <p>実施内容： 生命環境学科には、生命科学コースと環境科学コース、そして経過選択コースが存在している。経過選択の学生は、2年時の第2Q終了時に希望のコースへと配属される。また本コースは3年時に卒業研究を行う研究室に配属されるので、2年第3Qでは研究室配属にむけての生命科学セミナーが開講されるが、それまでに生命科学コースで行うことのできる具体的な研究領域について学ぶ機会はほとんどない。そこで生命科学コースの学生、そして経過選択コースから生命科学コースを選択した学生を対象にして、生命科学コースで行われる全教員の研究分野の理解、学生の希望に寄り添った研究室配属の決定、そして将来のキャリア形成を考える機会の創出を本テーマの目的とする。 具体的には、生命科学セミナー（2年3Q必修）で、全教員による研究内容の紹介及び学生による生命科学コースにある全ての研究室訪問を行い、所属コースの研究室で学べる内容、研究の方向性をナビゲートする。さらに配属を希望する研究室への個別訪問も行き、学修分野や研究領域、将来像、そして配属を希望する研究室の教員自身の理解を促進する。研究室配属前の各研究室の内容とその個性を十分に学生が理解することで学生の希望に沿った研究室配属の決定が可能となることが期待され、さらに学生自身の卒業研究への取り組む意欲の向上が見込まれる。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
生物資源 科学部 生命環境 学科 環境科学コ ース	大竹 才人 橋本 温 青柳 充 小林 謙介 柳下真由子	令和3年度 期間内	庄原キャンパス オンライン会議	<p>テーマ： オンライン授業における効果的なキャリア形成の取り組み</p> <p>実施目的： 環境と社会との関わりに対する理解を深め、自立的なキャリア形成を目的とする。</p> <p>キーワード： 生命環境科学基礎セミナー、環境科学セミナー、キャリア形成</p> <p>実施内容： 新カリキュラム2年目に当たり、キャリア形成科目として位置付けている1年3Q生命環境科学基礎セミナーと、それに接続される2年3Qの環境科学セミナーは、本年度通貫して実施されることになる。環境科学セミナーは、新カリキュラムにおいて初めての運用となり、その内容の構築を行なう。例えば、地域の環境関連施設を見学して、実際の取り組みを理解することで社会に果たす役割を通して、学生の主体的なキャリア形成の促進を試みる。一方で、実際に見学が実施できない状況下での対応も同時に考えて、オンライン授業での運用方法を検討する。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネー ター氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学 部看護学科/ 保健福祉学 科看護学コ ース	教育課程検討会 青井聡美	毎月1回	Teams オンライン会議	テーマ： カリキュラム評価の検討と卒業生アドバイザーの運用と国家試験対策の取り組み
				実施目的： DP 達成度を可視化し、主体的な学修を促進させる学修環境の整備
				キーワード： DP ルーブリック 卒業生アドバイザー 国家試験対策
				<p>実施内容：</p> <p>1. カリキュラム評価の検討</p> <p>①看護学科カリキュラムマップの作成</p> <p>②3P の関係図式化</p> <p>③DP 評価ルーブリックの作成</p> <p>2. 卒業生アドバイザーの運用</p> <p>卒業生による学生の学修支援を通じ、学生の学修意欲と学修効果の向上を図るとともに、卒業生及学生の成長の機会とする。また、卒業生の卒後の状況把握と継続教育、リフレクションの機会とすることを目的とした卒業生アドバイザーの運用方法を検討する。</p> <p>3. 国家試験対策</p> <p>国家試験合格に向け3つの対策を実施する。</p> <p>対策①：8月5日に看護師・保健師国家試験の傾向と陥りやすい傾向、年間学修計画と卒業生の学修方法を伝える講座を開催する。</p> <p>対策②：9月3日に津森教授による「解剖学セミナー」を開催する予定である。</p> <p>対策③：1月上旬に卒業生アドバイザーとのオンライン座談会を実施する。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学 部看護学科/ 保健福祉学 科看護学コ ース	実習検討会 吉田和美	テーマⅠ 年1回 (令和3年4月) テーマⅡ 毎月1回	テーマⅠ Teams会議 テーマⅡ Teams会議	<p>テーマ：</p> <p>テーマⅠ：実習指導担当者との前年度実習の成果と課題・今年度臨地実習に関する情報共有</p> <p>テーマⅡ：臨地実習教育の充実</p>
				<p>実施目的：実習にかかわる教員と実習指導担当者で情報共有を行い、臨地実習における学生の現状と課題を把握、共有し、円滑な臨地実習の運営と看護教育の質の向上を図る。</p>
				<p>キーワード： 臨地実習、教育方法、情報共有</p>
				<p>実施内容：</p> <p>テーマⅠ：新型コロナウイルス感染症拡大の状況から、Teamsでのオンライン会議（リアルタイム型）で「コロナ禍における臨床現場と教育現場双方の現状と課題」をテーマとし開催する。臨床から事前聴取したコロナ禍の教育の現状に関する事前アンケート報告と、前年度実習の成果・課題を報告し、今年度のより良い臨地実習に向けた情報共有を行う。</p> <p>テーマⅡ：年間の臨地実習に関わる情報を教員間で共有し、学生指導や実習環境についての検討を行う。また、年間実習計画の調整および見直しを実施する。臨地実習で求められる感染症予防対策（COVID-19、インフルエンザ等）、事故対策、個人情報及びプライバシーの保護に関して必要なマニュアルや書類の更新、書類管理の方法については、引き続き検討する。令和4年度実習要綱の作成と学生のレディネス形成を促す教育方法の検討を行う。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学 部看護学科/ 保健福祉学 科看護学コ ース	看護学科/ 看護学コース FD 担当 吉田 和美	令和3年 5月～	三原キャンパス 各講義室 または オンライン形式	<p>テーマⅠ：授業公開・授業参観を通じた教員相互の授業設計／授業展開の点検 テーマⅡ：パフォーマンス評価（ルーブリック）に関する学修</p>
				<p>実施目的：卒業時の到達目標（DP）の達成に向けて、看護実践能力の育成を目指した授業設計／授業展開を教員相互で点検し授業改善をおこなう。また、達成状況を真正に評価するためのパフォーマンス評価（ルーブリック）導入を推進する。</p>
				<p>キーワード： 授業設計，パフォーマンス評価（ルーブリック），組織的教育</p>
		令和3年度 2-3回	Teams オンライン会議	<p>実施内容： テーマⅠ： 令和元年度の実施した授業公開・授業参観の体系を改善した上で利用し実施する。参加教員は、「授業設計」と「授業の展開（単元ごとの目標達成に向けた教授方法の工夫等）」に関する意見交換をおこない、領域横断的な講義・演習・実習を充実させるための方策や看護実践能力の育成を目指した授業改善にヒントを得る機会とする。 テーマⅡ： セミナーの開催を通して、看護学コース内でのパフォーマンス課題を取り入れた授業やルーブリック評価の実践例を共有し、ルーブリックの導入と活用を促進する。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター氏名	日時	実施場所	実施内容等
保健福祉学部 保健福祉学科 理学療法学 コース	佐藤勇太	(前期) 毎週水曜日4限 (後期) 毎週水曜日1限	Teams内	<p>テーマ：「学生の動向を把握・共有する」,「コロナ禍での講義の形態・方向性を吟味する」 「各教員の研究領域の紹介」</p>
				<p>実施目的：「要支援学生の指導・援助の一貫化を図る」,「コロナ禍での授業形態・方向性の共有および改善」,「最新の知見を踏まえた専門教育の充実を図る」</p>
				<p>キーワード：学生支援, 国家試験, 教育実践</p>
				<p>実施内容：</p> <p>(1)「学生の動向を把握・共有する」について 前年度に引き続き, オンライン講義等の実施により, 対面の機会が少なくなったことに伴い, 各チューターを中心にコロナ禍前以上に学生の動向を把握するよう努めた。また, 各学生の情報を共有することで, 指導・援助の一貫化を図った。各学生の状況は, 毎週のコース会議にて各学年担当のチューターから報告された。配慮が必要な学生については, 各担当教員を中心に詳細な報告・情報共有をし, 必要に応じて協議を行った。臨床実習の時期には, 臨床実習指導者や教員が連携し, 学生状況の把握・共有を図った。</p> <p>(2)「コロナ禍での講義の形態・方向性を吟味する」について 前年度同様, オンライン講義等の実施により, これまでの講義形態とは異なる教授方法の知識・技術が必要となったことも踏まえ, 専門教育のさらなる充実を図るために, 講義内容, 学生指導のあり方について検討した。また感染予防対策をより効果的に実施していくための情報共有・環境整備を行った。コース会議において, 国家試験模試の結果を共有し, 国家試験に向けた講義等に活用した。コース会議に合わせて月1回程度, 各種教授法の実践例紹介などを通して情報共有し, 今後の講義を吟味した。また, 指定規則改定に伴う実習体制の検討や教育プログラムの構築, 新施設基準に即した教育物品の購入・充実化を継続して実施した。</p> <p>(3)「各教員の研究領域の紹介」について 各教員の研究領域における成果の共有や最新のトピックスを紹介することを通じ, 研究・教育能力の向上を図った。コース会議に合わせて月1回程度, 各教員の研究紹介などを通して実施した。</p> <p>(1)(2)(3)の内容は, 個人情報を含むコース特有の内容についての議論が必要である。このため, 総合的に判断し, 今年度の公開は見送ることとなった。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学 部 作業療法学コ ース	助川 文子	年 10 回 毎月第1・3水曜 12:30-13:00	(前期) オンライン (後期) 2416 会議室	<p>テーマⅠ：学生支援と教育効果に関する検討 テーマⅡ：「教員の研究領域の紹介」</p>
				<p>実施目的： テーマⅠ：学生の情報共有と指導・援助のコース内のコンセンサスを図る。事例検討，各年次の課題，臨床実習/国家試験指導等のテーマ別の検討の共有を行う。 テーマⅡ：各教員の研究領域における成果を共有し，最新の研究エビデンスの共有と研究・教育能力の向上を図る。</p>
				<p>キーワード： 学生指導，臨床実習指導，国家試験指導</p>
				<p>実施内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学生の情報共有と事例検討(テーマⅠ) ②臨床実習教育(テーマⅠ) 指定規則の変更に対応できる実習形態の変更とともに実習先の病院や施設と連携を図りながら，よりよい臨床実習教育の充実について昨年度に引き続きカリキュラムツリーの検討を行う。 ③国家試験指導(テーマⅠ) 国家試験全員合格に向けて基礎学習から低成績者の学修をサポート，支援体制を構築を検討する。 ④最新の研究エビデンスの共有(テーマⅡ) 作業療法関連領域における教員の研究成果を共有し，教育内容に取り入れていく。

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネー ター氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学 部 保健福祉学 科 コミュニケ ーション障 害学コース	伊集院睦雄	令和3年度（月 に1回程度）	三原キャンパス 内／Teams上	テーマ：年間を通じた学科での教育改善活動
				実施目的：教育の質の向上を目的として、各教員が行っている研究・教育活動、実施・参加したFDに関する研修などの内容を共有する。さらに、教育の成果に即したカリキュラム改善を目的として、年間を通して教育課程の改善について検討を行う。
				キーワード：教育の改善、研究活動情報共有、伝達講習
				実施内容： 1. 教員が取り組んでいる研究活動の紹介と議論 2. 教員が取り組んでいる教育改善活動の紹介と共有 3. FDに関連した学外等で実施された研修内容の共有

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネー ター氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
人間福祉学 科	大下由美	令和3年／令和 4年	三原キャンパス 内／Teams上	テーマ： 人間福祉学コースの教育の質の向上を図る
				実施目的： 学科教員の教育内容の洗練と教授スキルの向上を目指す
				キーワード： 教授内容、教授スキル、アクティブ・ラーナーの養成、ピア・レビュー
				<p>実施内容：本年度人間福祉学科・コースでは、以下の3つの活動を行う。</p> <p>（1）教育内容の検討に取り組む（新） 学部・学科・コースのポリシーに見合う人材育成に向けた、教育内容の検討を開始し、教員間相互の教育研究に関する意見交換の場を設け、相互研鑽を図る。</p> <p>（2）教授スキル（オンライン限定）の共有と向上 学科・コース教員のオンラインでの授業スキルの共有と向上に向けて、オンライン授業支援委員を中心とした、オンライン授業スキルの共有を図る。</p> <p>（3）ピア・レビュー 学科・コース教員による相互レビューとして、以下の2つの活動を行う。 ①学科・コース教員による授業公開と授業参観を相互に行う（オンラインを含む）。 ②社会福祉実習と精神保健福祉実習の取り組みについて、学科・コース教員全員で相互レビューする（年度末に1回）。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネー ター氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
助産学専攻 科	宮下ルリ子 奥山葉子 金川景子 百田由希子	令和3年4月～令 和4年3月（月に 1回程度）	三原キャンパ ス4301 室 によるオンライ ン会議を含む）	<p>テーマ： 教育や実践・臨床現場の効果的な質保証に向けた取り組み</p>
				<p>実施目的： 学生の学修意欲を引き出すための主体的な授業や参加型学修方法、それらを評価するための方法について検討を行う。また教員の学修指導力の向上や教員自身の実践力を身につけることを目的とする。</p>
				<p>キーワード： 教育技法（AL型：シミュレーション教育）、教育評価</p>
				<p>実施内容： 社会情勢の急激な変化に伴い、複雑化する諸問題への対応が必要となっています。こうした中、助産学専攻科では、幅広い知識と柔軟な思考力に基づき、学生自らが考え、仲間とともに主体的に学ぶ授業スタイルを大切にしています。教員は専門職としての自律を担保し、また、臨床現場に即した実践能力や教育方法を検討する必要があります。</p> <p>①助産シミュレーション教育について（4/9・宮下） ②臨床能力・実習実践力の評価について（5/24・奥山） ③倫理的感受性能力を育む（6/18・百田） ④（7月末予定・金川） 以降、月に1回程度開催予定。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネータ 氏名	日時	実施場所	実施内容等
人間文化学部 健康科学科 地域創生学部 地域創生学科 健康科学コース	松本 拓也 辻 文 岡田 玄也 鍛島 秀明 山岡 雅子	R3. 7. 21(水) R3. 9. 15(水) コース会議終了 後～	Teams におけるオ ンライン会議 広島キャンパス会 議室 各研究室	<p>テーマ： 管理栄養士国家試験合格率向上のための組織的な取り組み</p> <p>実施目的：管理栄養士国家試験の全国合格率は、新卒者では90%程度であるが、既卒者では20%程度に留まるため、新卒での合格が必須である。健康科学科・健康科学コースの直近5年間の合格率は94.4%から100%の間で推移し、平均合格率は97.8%である。年度によっては全員合格に至らない場合もあるため、国家試験対策を効果的に実施する必要がある。したがって、管理栄養士国家試験対策を効果的に実施し、国家試験合格率向上のための組織的な検討を試みる。</p> <p>キーワード： 管理栄養士国家試験対策、合格率、組織的取り組み</p> <p>実施内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の受験者において合格に至らなかった事例を取り上げ、学習支援の方法に反映させる。 ・授業内で実施している国家試験対策を各教員から紹介してもらい、学科・コースで共有する。 ・国家試験に対する学習支援内容や合格率などの現状を検証し、効率的な支援体制を検討する。 ・模擬試験等で得点が伸び悩む学生に対する支援方法等について、国家試験対策教員と所属研究室教員との間で効果的に実施する体制を整える。

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
経営学科	矢澤 利弘 朴 唯新	R3.12.8（水） 10：40～12：10	広島キャンパス 各研究室 （オンライン）	<p>テーマ：ゼミ活動における行動型学修の指導方法の検討</p>
				<p>実施目的：行動型学修が期待される演習科目の質の向上及び改善を目的として、教員のユニークな取り組みの事例や内容を共有し、教育・指導方法を検討する。</p>
				<p>キーワード：行動型学修，教育方法，情報共有</p>
				<p>実施内容：</p> <p>学生が教室外での学びを取り入れる行動型学修の具体的な方法や注意点について、教員が報告し、学科全教員で意見交換し、効果的な教育・指導方法を検討する。</p> <p>具体的には、定例の学科会議に合わせて、行動型学修のユニークな取り組み等について報告する。今年度は、行動型学修のケースとして、矢澤ゼミが毎年開催している広島こわい映画祭を題材にして、活動の概要、学生との接し方、どこまで教員がリーダーシップを取るべきか、オンライン環境における学生とのコミュニケーションなどの各論点について報告を行う。報告後は質疑応答を行い、各教員が参考とすべき点、工夫や改善が望まれる点などについて、全教員で意見を交換する。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
地域産業コー ス応用情報 経営情報学科	佐々木宣介 重丸伸二 陳 金輝 富田哲治	5月12日～19日 6月10日 7月7日	オンライン (Teams等)	<p>テーマ： オンライン授業の実施状況とその取り組み事例に基づく検討</p> <p>実施目的： 学科・コースで実際されたオンライン授業の実施状況をとりとめ、各教員が取り組んだ工夫な失敗談などをコース教員で共有し、より良いオンライン授業のノウハウを共有し今後も続くであろうオンライン授業の改善に活かすことを目的とする。</p> <p>キーワード： オンライン授業、教育方法、情報共有</p> <p>実施内容： 地域産業コース応用情報の教員が担当する授業に対して、講義を主とする科目および演習・実験を主とする科目において、どのような形態（リアルタイム、オンデマンド、併用など）でオンライン授業を実施したかをFormsによりとりとめる。合わせて、各授業における工夫した点、難しいと感じた点を自由記述で入力してもらい、実験・演習の多いコース特有の状況把握を行う。次に、とりとめたオンライン授業の実施状況をもとに、いくつかの科目について、その取り組み内容に関するヒアリングを行う。オンライン授業の実施状況のとりとめ、および、個別のヒアリングの内容は、7月7日（水）10時20分～12時10分に開催される、地域創生学部の「オンライン授業に関する情報交換会」で報告し、学部・学科・コースでノウハウ共有および意見交換を行う。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
生物資源科 学部 生命環境科 学科 生命科学コ ース	伊原 伸治	10/5, 10/19, 11/2, 11/16, 12/7	大講義室, 各研究 室, オンラインオ ンデマンド等	<p>テーマ： 学生による主体的な研究室配属の決定とキャリア形成への意識付け</p> <p>実施目的： 今年度が新しいコースでの最初の研究室配属となる。卒業研究、すなわちアクティブラーニングを学生主体に推進するために、コースの学生希望にそった研究室配属の制度設計を行う。また学生が興味のある卒業研究に取り組めるように本コースに所属している教員の専門分野や研究領域を学ぶ事を目的とする。</p> <p>キーワード： アクティブラーニング, 学びの意識づけ, キャリア形成</p> <p>実施内容： 生命環境学科には、生命科学コースと環境科学コース、そして経過選択コースが存在している。経過選択の学生は、2年時の第2Q終了時に希望のコースへと配属される。また本コースは3年時に卒業研究を行う研究室に配属されるので、2年第3Qでは研究室配属にむけての生命科学セミナーが開講されるが、それまでに生命科学コースで行うことのできる具体的な研究領域について学ぶ機会はほとんどない。そこで生命科学コースの学生、そして経過選択コースから生命科学コースを選択した学生を対象にして、生命科学コースで行われる全教員の研究分野の理解、学生の希望に寄り添った研究室配属の決定、そして将来のキャリア形成を考える機会の創出を本テーマの目的とする。 具体的には、生命科学セミナー（2年3Q必修）で、全教員による研究内容の紹介及び学生による生命科学コースにある全ての研究室訪問を行い、所属コースの研究室で学べる内容、研究の方向性をナビゲートする。さらに配属を希望する研究室への個別訪問も行き、学修分野や研究領域、将来像、そして配属を希望する研究室の教員自身の理解を促進する。研究室配属前の各研究室の内容とその個性を十分に学生が理解することで学生の希望に沿った研究室配属の決定が可能となることが期待され、さらに学生自身の卒業研究への取り組む意欲の向上が見込まれる。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
生物資源 科学部 生命環境 学科 環境科学 コース	大竹 才人 橋本 温 青柳 充 小林 謙介 柳下真由子	令和3年度 期間内	庄原キャンパス オンライン会議	<p>テーマ： オンライン授業における効果的なキャリア形成の取り組み</p> <p>実施目的： 環境と社会との関わりに対する理解を深め、自立的なキャリア形成を目的とする。</p> <p>キーワード： 生命環境科学基礎セミナー、環境科学セミナー、キャリア形成</p> <p>実施内容： 新カリキュラム2年目に当たり、キャリア形成科目として位置付けている1年3Q生命環境科学基礎セミナーと、それに接続される2年3Qの環境科学セミナーは、本年度通貫して実施されることになる。環境科学セミナーは、新カリキュラムにおいて初めての運用となり、その内容の構築を行なう。例えば、地域の環境関連施設を見学して、実際の取り組みを理解することで社会に果たす役割を通して、学生の主体的なキャリア形成の促進を試みる。一方で、実際に見学が実施できない状況下での対応も同時に考えて、オンライン授業での運用方法を検討する。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
保健福祉学部看護学科/ 保健福祉学科看護学コース	教育課程検討会青 井聡美	毎月1回	Teams オンライン会議	テーマ：カリキュラム評価の検討と卒業生アドバイザーの運用と国家試験対策の取り組み
				実施目的：DP達成度を可視化し、主体的な学修を促進させる学修環境の整備
				キーワード：DPルーブリック 卒業生アドバイザー 国家試験対策
				<p>実施内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> カリキュラム評価の検討 <ol style="list-style-type: none"> 看護学科カリキュラムマップの作成 3Pの関係図式化 DP評価ルーブリックの作成 卒業生アドバイザーの運用 卒業生による学生の学修支援を通じ、学生の学修意欲と学修効果の向上を図るとともに、卒業生及び学生の成長の機会とする。また、卒業生の卒後の状況把握と継続教育、リフレクションの機会とすることを目的とした卒業生アドバイザーの運用方法を検討する。 国家試験対策 国家試験合格に向け3つの対策を実施する。 対策①：8月5日に看護師・保健師国家試験の傾向と陥りやすい傾向、年間学修計画と卒業生の学修方法を伝える講座を開催する。 対策②：9月3日に津森教授による「解剖学セミナー」を開催する予定である。 対策③：1月上旬に卒業生アドバイザーとのオンライン座談会を実施する。

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学 部看護学科/ 保健福祉学 科看護学コ ース	実習検討会 吉田和美	テーマⅠ 年1回 (令和3年4月) テーマⅡ 毎月1回	テーマⅠ Teams 会議 テーマⅡ Teams 会議	<p>テーマ： テーマⅠ：実習指導担当者との前年度実習の成果と課題・今年度臨地実習に関する情報共有 テーマⅡ：臨地実習教育の充実</p>
				<p>実施目的：実習にかかわる教員と実習指導担当者で情報共有を行い、臨地実習における学生の現状と課題を把握、共有し、円滑な臨地実習の運営と看護教育の質の向上を図る。</p>
				<p>キーワード： 臨地実習，教育方法，情報共有</p>
				<p>実施内容： テーマⅠ：新型コロナウイルス感染症拡大の状況から、Teamsでのオンライン会議（リアルタイム型）で「コロナ禍における臨床現場と教育現場双方の現状と課題」をテーマとし開催する。臨床から事前聴取したコロナ禍の教育の現状に関する事前アンケート報告と、前年度実習の成果・課題を報告し、今年度のより良い臨地実習に向けた情報共有を行う。 テーマⅡ：年間の臨地実習に関わる情報を教員間で共有し、学生指導や実習環境についての検討を行う。また、年間実習計画の調整および見直しを実施する。臨地実習で求められる感染症予防対策（COVID-19、インフルエンザ等）、事故対策、個人情報及びプライバシーの保護に関して必要なマニュアルや書類の更新、書類管理の方法については、引き続き検討する。令和4年度実習要綱の作成と学生のレディネス形成を促す教育方法の検討を行う。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学 部看護学科/ 保健福祉学 科看護学コ ース	看護学科/ 看護学コース FD 担当 吉田 和美	令和3年 5月～	三原キャンパス 各講義室 または オンライン形式	<p>テーマⅠ：授業公開・授業参観を通じた教員相互の授業設計／授業展開の点検 テーマⅡ：パフォーマンス評価（ルーブリック）に関する学修</p>
				<p>実施目的：卒業時の到達目標（DP）の達成に向けて、看護実践能力の育成を目指した授業設計／授業展開を教員相互で点検し授業改善をおこなう。また、達成状況を真正に評価するためのパフォーマンス評価（ルーブリック）導入を推進する。</p>
		令和3年度 2-3回	Teams オンライン会議	<p>キーワード： 授業設計，パフォーマンス評価（ルーブリック），組織的教育</p> <p>実施内容： テーマⅠ： 令和元年度の実施した授業公開・授業参観の体系を改善した上で利用し実施する。参加教員は、「授業設計」と「授業の展開（単元ごとの目標達成に向けた教授方法の工夫等）」に関する意見交換をおこない、領域横断的な講義・演習・実習を充実させるための方策や看護実践能力の育成を目指した授業改善にヒントを得る機会とする。 テーマⅡ： セミナーの開催を通して、看護学コース内でのパフォーマンス課題を取り入れた授業やルーブリック評価の実践例を共有し、ルーブリックの導入と活用を促進する。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 理学療法学 コース	佐藤勇太	(前期) 毎週水曜日 4 限 (後期) 毎週水曜日 1 限	Teams 内(予定)	<p>テーマ： 「学生の動向を把握・共有する」, 「コロナ禍での講義の形態・方向性を吟味する」 「各教員の研究領域の紹介」</p>
				<p>実施目的： 「要支援学生の指導・援助の一貫化を図る」, 「コロナ禍での授業形態・方向性の共有および改善」, 「最新の知見を踏まえた専門教育の充実を図る」</p>
				<p>キーワード： 学生支援, 国家試験, 教育実践</p>
				<p>実施内容：</p> <p>(1) 「学生の動向を把握・共有する」について 前年度に引き続き、オンライン講義等の実施により、対面の機会が少なくなったことに伴い、各チューターを中心にコロナ禍前以上に学生の動向を把握するよう努める。また、各学生の情報を共有することで、指導・援助の一貫化を図る。各学生の状況は、毎週のコース会議にて各学年担当のチューターから報告される。配慮が必要な学生については、各担当教員を中心に詳細な報告・情報共有をし、協議を行う。臨床実習の時期には、臨床実習指導者や教員が連携し、学生状況の把握・共有を図る。</p> <p>(2) 「コロナ禍での講義の形態・方向性を吟味する」について オンライン講義等の実施により、これまでの講義形態とは異なる教授方法の知識・技術が必要となったことも踏まえ、専門教育のさらなる充実を図るために、講義内容、学生指導のあり方について検討する。また感染予防対策をより効果的に実施していくための情報共有を行う。コース会議において、国家試験模試の結果を共有し、国家試験に向けた講義等に活用する。コース会議に合わせて月1回程度、各種教授法の実践例紹介などを通して情報共有し、今後の講義を吟味する。また、指定規則改定に伴う実習体制の検討や教育プログラムの構築、新施設基準に即した教育物品の購入・充実化を引き続き行っていく。</p> <p>(3) 「各教員の研究領域の紹介」について 各教員の研究領域における成果の共有や最新のトピックスを紹介することを通じ、研究・教育能力の向上を図る。コース会議に合わせて月1回程度、各教員の研究紹介などを通して実施予定である。</p> <p>(1)(2)(3)の内容は、個人情報を含むコース特有の内容についての議論が必要である。このため、公開は、取り扱う内容によって判断するものとする。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等	
保健福祉学 部 作業療法学 コース	助川 文子	毎月第1・3水曜 12:30-13:00 年9回	オンライン (Teams)	<p>テーマⅠ：学生支援と教育効果に関する検討 テーマⅡ：「教員の研究領域の紹介」</p>	
		4/21		<p>実施目的：テーマⅠ：学生の情報共有と指導・援助のコース内のコンセンサスを図る。事例検討，各年次の課題，臨床実習/国家試験指導等のテーマ別の検討の共有を行う。 テーマⅡ：各教員の研究領域における成果を共有し，最新の研究エビデンスの共有と研究・教育能力の向上を図る。</p>	
		7/21		<p>キーワード： 学生指導，臨床実習指導，国家試験指導，</p>	
		8/18		<p>実施内容： ①学生の情報共有と事例検討(テーマⅠ) ②臨床実習教育(テーマⅠ) 指定規則の変更に対応できる実習形態の変更とともに実習先の病院や施設と連携を図りながら，よりよい臨床実習教育の充実について昨年度に引き続きカリキュラムツリーの検討を行う。 ③国家試験指導(テーマⅠ) 国家試験全員合格に向けて基礎学習から低成績者の学修をサポート，支援体制を構築を検討する。 ④最新の研究エビデンスの共有(テーマⅡ) 作業療法関連領域における教員の研究成果を共有し，教育内容に取り入れていく。</p>	
		9/15		<p>担当教員と発表領域： ①4/21 R2 年度国家試験結果報告と分析(藤巻・坂本) ②7/21 1年学生の状況報告(高木・増田) ③8/18 研究領域の紹介(池内) ④9/15 4年臨床実習の振り返り(織田) ⑤10/20 研究領域の紹介(坂本) ⑥担当教員(助川)の病休にあたり中止 ⑦12/1 研究領域の紹介(田中) ⑧1/19 2-3年学生の状況報告(織田・池内) ⑨2/16 4年国家試験前の状況報告(川原田・久野・坂本) ⑩3/9 研究領域の紹介(助川)</p>	
10/20	12/1	1/19	2/16	3/9	11月分中止

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学 部 保健福祉学 科 コミュニケ ーション障 害学コース	伊集院睦雄	令和3年度（月 に1回程度）	三原キャンパス 内／Teams 上	<p>テーマ： 年間を通じた学科での教育改善活動</p> <p>実施目的： 教育の質の向上を目的として、各教員が行っている研究・教育活動、実施・参加したFDに関する研修などの内容を共有する。さらに、教育の成果に即したカリキュラム改善を目的として、年間を通して教育課程の改善について検討を行う。</p> <p>キーワード： 教育の改善、研究活動情報共有、伝達講習</p> <p>実施内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員が取り組んでいる研究活動の紹介と議論 2. 教員が取り組んでいる教育改善活動の紹介と共有 3. FDに関連した学外等で実施された研修内容の共有

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
人間福祉学 科	大下由美	令和3年／令和 4年	三原キャンパス 内／Teams上	<p>テーマ： 人間福祉学コースの教育の質の向上を図る</p> <p>実施目的： 学科教員の教育内容の洗練と教授スキルの向上を目指す</p> <p>キーワード： 教授内容、教授スキル、アクティブ・ラーナーの養成、ピア・レビュー</p> <p>実施内容： 本年度人間福祉学科・コースでは、以下の3つの活動を行う。</p> <p>（1）教育内容の検討に取り組む（新） 学部・学科・コースのポリシーに見合う人材育成に向けた、教育内容の検討を開始し、教員間相互の教育研究に関する意見交換の場を設け、相互研鑽を図る。</p> <p>（2）教授スキル（オンライン限定）の共有と向上 学科・コース教員のオンラインでの授業スキルの共有と向上に向けて、オンライン授業支援委員会を中心とした、オンライン授業スキルの共有を図る。</p> <p>（3）ピア・レビュー 学科・コース教員による相互レビューとして、以下の2つの活動を行う。 ①学科・コース教員による授業公開と授業参観を相互に行う（オンラインを含む）。 ②社会福祉実習と精神保健福祉実習の取り組みについて、学科・コース教員全員で相互レビューする（年度末に1回）。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
助産学専攻 科	宮下ルリ子 奥山葉子 金川景子 百田由希子	令和3年4月～令 和4年3月（月に 1回程度）	三原キャンパス 4301室（Zoom によるオンライ ン会議を含む）	<p>テーマ：教育や実践・臨床現場の効果的な質保証に向けた取り組み</p> <p>実施目的：学生の学修意欲を引き出すための主体的な授業や参加型学修方法、それらを評価するための方法について検討を行う。また教員の学修指導力の向上や教員自身の実践力を身につけることを目的とする。</p> <p>キーワード：教育技法（AL型：シミュレーション教育）、教育評価</p> <p>実施内容： 社会情勢の急激な変化に伴い、複雑化する諸問題への対応が必要となっています。こうした中、助産学専攻科では、幅広い知識と柔軟な思考力に基づき、学生自らが考え、仲間とともに主体的に学ぶ授業スタイルを大切にしています。教員は専門職としての自律を担保し、また、臨床現場に即した実践能力や教育方法を検討する必要があります。</p> <p>①助産シミュレーション教育について（4/9・宮下） ②臨床能力・実習実践力の評価について（5/24・奥山） ③倫理的感受性能力を育む（6/18・百田） ④（7月末予定・金川） 以降、月に1回程度開催予定。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学 部 保健福祉学 科 コミュニケ ーション障 害学コース	伊集院睦雄	令和3年度 (計7回実施)	Teams 上にてオ ンラインで実施	<p>テーマ： 年間を通じた学科での教育改善活動</p> <p>実施目的：教育の質の向上を目的として、各教員が行っている研究・教育活動、実施・参加したFDに関する研修などの内容を共有する。さらに、教育の成果に即したカリキュラム改善を目的として、年間を通して教育課程の改善について検討を行う。</p> <p>キーワード： 教育の改善、研究活動情報共有、伝達講習</p> <p>実施内容： テーマⅠ 教員が取り組んでいる研究活動の紹介と議論 ① 失語症者向け意思疎通支援事業の現状と課題（2021年10月20日、話題提供：三上裕子、坊岡峰子） ② 語と文の文法—主に動詞活用について—（2022年1月26日、話題提供：渡辺眞澄） ③ コミュニケーションの実行状況の測定法の検討（① 日常コミュニケーション遂行度測定（CPM）② コミュニケーション参加に関する質問項目バンク（CPIB）日本語版）（2022年2月16日、話題提供：小澤由嗣） ④ 小児臨床の現状（2022年3月22日、話題提供：堀江真由美）</p> <p>テーマⅡ 教員が取り組んでいる教育改善活動の紹介と共有 ① 2021年度ST国家試験の対策と現状（2021年8月3日、話題提供：津田哲也） ② オンライン授業における著作権の扱い（2021年9月22日、話題提供：細川淳嗣） ③ 講義科目「言語発達」の”事前学修としての”保育所1日見学の効果—学生の感想・アンケート結果の分析から—（2021年11月17日、話題提供：小畠理恵子）</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
人間福祉学 科(コース)	大下 由美	令和3年度 (1)学科研修会 2/9(水) 10:30~12:10 (2)ピア・レ ビュー事業(実習代 替プログラムを 含む)	三原キャンパス 内	<p>テーマ： 人間福祉学コースの教育の質の向上を図る</p> <p>実施目的： 学科教員の教育内容の洗練と教授スキルの向上を目指す</p> <p>キーワード： 教授内容、教授スキル、アクティブ・ラーナーの養成、ピア・レビュー</p> <p>実施内容： 本年度人間福祉学コースでは、以下の3つの活動を行った。</p> <p>(1) 教育内容の検討に取り組む 定例のコース会議で、コース教員で行う研修プログラムについて議論する場を設定した。学部の研修方向と合わせてコースの研修内容を検討し、実施することができた。コースのポリシーに見合う人材育成に向けて、「アピールする研究」「アピールする授業科目」「オリジナルなソーシャルワーカー像」という3つのテーマを設定し、グループ・ディスカッションを行い、全体でこれからの方向性に関する考えの共有を図った。様々な角度からテーマについて意見が出され、これまでのWGに加えて、コースで自主的な取り組みをする提案がなされるという成果があった。</p> <p>(2) 教授スキル（オンライン限定）の共有と向上 オンラインでの授業スキルについて、積極的に情報共有を図った。</p> <p>(3) ピア・レビュー ＜実習代替プログラム＞オンラインで行った社会福祉実習及び精神保健福祉実習の代替措置プログラムを、担当教員が相互にピア・レビューする形で実施した。両実習プログラムの担当教員は、実習担当教員間相互で、授業内容及び教授法を振り返った。 ＜授業＞コースの新任教員、昇任教員等から積極的に授業公開をしていただき、コース教員も積極的に授業参観し、授業内容、教授法等について議論する機会を持った。</p>

令和3年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
助産学専攻 科	宮下ルリ子 奥山葉子 金川景子 百田由希子	令和3年4月～令 和4年3月（月に 1回程度）	三原キャンパス 4301室（Zoom によるオンライ ン会議を含む）	<p>テーマ：教育や実践・臨床現場の効果的な質保証に向けた取り組み</p> <p>実施目的：学生の学修意欲を引き出すための主体的な授業や参加型学修方法、それらを評価するための方法について検討を行う。また教員の学修指導力の向上や教員自身の実践力を身につけることを目的とする。</p> <p>キーワード：教育技法（AL型：シミュレーション教育）、教育評価</p> <p>実施内容： 社会情勢の急激な変化に伴い、複雑化する諸問題への対応が必要となっています。こうした中、助産学専攻科では、幅広い知識と柔軟な思考力に基づき、学生自らが考え、仲間とともに主体的に学ぶ授業スタイルを大切にしています。教員は専門職としての自律を担保し、また、臨床現場に即した実践能力や教育方法を検討する必要があります。</p> <p>①助産シミュレーション教育について（4/9・宮下） ②臨床能力・実習実践力の評価について（5/24・奥山） ③倫理的感受性能力を育む（6/18・百田） ④（7月末予定・金川） 以降、月に1回程度開催予定。</p>